



嬉野市新庁舎オフィス環境整備支援業務

調査報告書 (令和4年9月～令和4年11月)

2022.11.25

コクヨマーケティング株式会社

KOKUYO

KOKUYO

(1) オフィス環境整備基本計画策定業務

①現況調査の実施 ②与条件整理調査の実施

- 市民サービス（窓口の狭隘化によるスペース不足）
- 執務空間（執務空間の狭隘化によるスペース不足）
- プライバシー・セキュリティの配慮
- ユニバーサルデザイン（外国人・身障者・高齢者・子連れ）の欠如
- 適切な什器選定
- 文書収納・スペース効率が非効率

③文書・物品量調査（執務室・文書庫等）

④現状の執務面積等と他都市の比較

(1) オフィス環境整備基本計画策定業務 ①現状調査の実施 ②与条件整理調査の実施

■ 市民サービス（窓口の狭隘化によるスペース不足）

課題の整理

- ・ 来庁者スペースが狭くユニバーサルデザインやプライバシー配慮などの観点での課題がある状況となっている
- ・ 各種相談口のプライバシー確保及び市民の打ち合わせスペースや相談室の確保が困難



住民スペースが狭隘化しておりプライバシー配慮に課題がある



窓口カウンターが狭く、窓口対応時には後ろは通れない

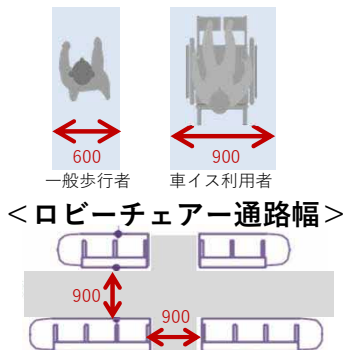


入隅にある住民窓口は片方が利用しにくい

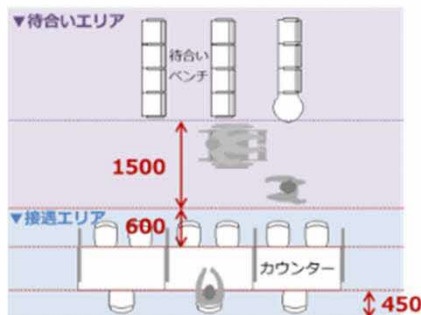
改善策の提示 誰もが快適に目的の窓口まで移動できる適切な寸法設定

来庁者が窓口で快適に過ごす上で、空間寸法の設定が重要となります。待合空間では、誰もがスムーズに窓口と行き来できるよう、**広いスペースを必要とする車イス・ベビーカー利用者を基準に通路幅を設定**します。

<必要有効通路寸法>



<カウンター前通路幅>



(1) オフィス環境整備基本計画策定業務 ①現状調査 ②与条件整理調査

■ 執務空間（執務空間の狭隘化によるスペース不足）

課題の整理

- ・ 執務室内での作業や職員同士の打合せなどを行うスペースが少ない
- ・ 食事や休憩などを行う職員のプライバシースペースがないため業務のメリハリをつけた働き方がしづらい環境となっている



窓際の収納庫前がデスクと近く狭くなっている



椅子の背が収納庫に当り後ろが通る事が出来ない



執務室内の打合せスペースから収納庫までが狭い

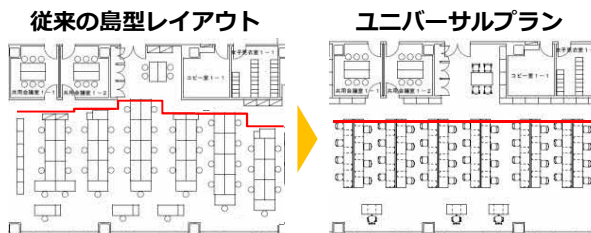
改善策の提示

将来変化への柔軟な対応について＝ユニバーサル＆フレキシビリティの実現

近年整備された新庁舎では、毎年の組織変更に対応可能な「ユニバーサルプラン」が多く採用されています。今回の業務では、そのユニバーサルプランを更に進化させ、業務に応じて島型対向・フリーアドレス(共有席)・集中席・協議テーブルと**職員の手で自由に変更できる「フレキシブルレイアウト」**を提案します。多くの自治体オフィス構築の経験を元に、目指す働き方に最適なオフィス環境を職員の方々と一緒に構築します。

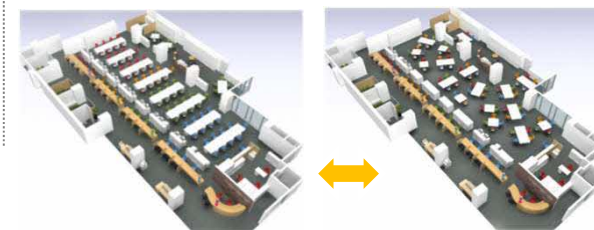
<ユニバーサルプラン>

デスク配置やデスクの規格が統一されており、組織変更時には島を崩すことなく、職員と文書の移動で対応。



<フレキシブルレイアウト>

運用当初は可動テーブルを、島型対向式に配置、チーム制導入時には、簡単にデスクの配置組替えが可能。



(1) オフィス環境整備基本計画策定業務 ①現状調査 ②与条件整理調査

■ プライバシー・セキュリティの配慮

課題の整理

- ・各種相談口のプライバシー確保及び相談室数の確保がされていない
- ・防犯への対策が十分に出来ていない



窓口に隔てる仕切りがないので相談内容の漏洩がある



扉が無いので自由に執務室に入る事ができる



相談スペースが雑多になっており音の配慮ができていない

改善策の提示 来庁者の安心・安全を確保するためのプライバシー・セキュリティの配慮

来庁者にとって、**多くの個人情報を扱う窓口空間の安心・安全のポイントとなるのはプライバシーへの配慮**です。窓口で話す内容や、申請書の個人情報が漏れることが無いように計画します。

<窓口前>



通路を広くとり、待合イスとカウンターを正対させない配置として、窓口での会話を聞かれないようにします。

<窓口相談ブース>



窓口で隣り合う来庁者の顔や手元が隠れるよう、窓口のカウンターには仕切りパネルを設置します。

仕切りパネル (固定式)



フラッシュドア



通路部分にはセキュリティ配慮のフラッシュドアを装備

<相談室>



さらにプライバシーへの配慮が必要な相談室では、会話が外部に漏れないようにする仕組みを提案します。

(1) オフィス環境整備基本計画策定業務 ①現状調査 ②与条件整理調査

■ ユニバーサルデザイン（外国人・身障者・高齢者・子連れ）の欠如

課題の整理

- ・一部通路の狭隘化が見られ、車いす利用者や目の不自由な方の通行に支障が出ている
- ・サイン表記が高齢者や弱視の方が読み取りにくく、統一感がなく混乱しやすい



サイン本体の足が車椅子・ベビーカー等の通行の障害となり危険性がある



点字ブロック付近に什器が配置されているため、目の不自由な方の通行の妨げになっている



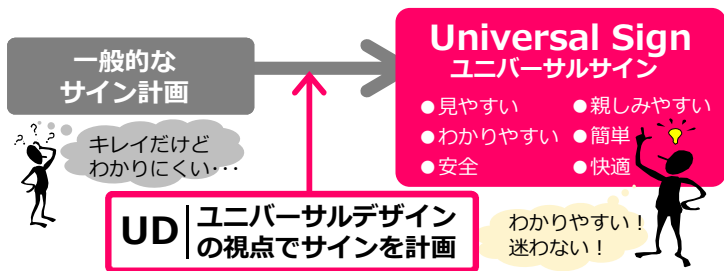
可読性の低い書体を起用しているため、高齢者や弱視の方は読み取りにくい

改善策の提示 初めての来庁者が見てもわかりやすく迷わないユニバーサルサイン計画

初めて来庁する方を含め、誰にとっても直感的にわかりやすく、利用しやすい窓口空間を実現するためには、**見た目のデザインばかりでなく、文字の書体・大きさ、サイン本体の色・形状や設置位置など、来庁者の視点に立ったユニバーサルサインを計画することが重要**です。また、「嬉野市らしさ」をデザインに取り入れることで、来庁者に対して嬉野市の良さを表現するツールとして活用することもできます。

<可変性：マグネット>

<可変性：マグネット・吊り下げ・ピックアップレール>



イメージ



イメージ



イメージ

■ 適切な什器選定

課題の整理

- ・ 執務室では汚れや破損がある状態で使い続けられている椅子が多く見られる
- ・ 市民が使用する椅子に関しても、立ち座りのしやすさへの配慮が必要である



肘掛けの表面が破れて内部のクッション材が露出し錆ている



転倒しやすい4本脚仕様で、使用年数が長く経年劣化している恐れがある



お客様利用の折りたたみ椅子は転倒の恐れがある

改善策の提示

誰にとっても快適で使い勝手のよい「さりげなく良い」家具

来庁者が直接触れる家具で重要なポイントは「誰か特定の人のための専用家具」ではなく、**どのような来庁者も快適に過ごせる家具の導入**です。弊社は、子ども連れや妊婦、怪我をしている人、高齢者など、誰もが常に快適に感じられるユニバーサルデザインに配慮した家具を提案します。

<待合いソファ>



横からのアクセスがしやすく、立ち座りしやすいミニ肘付きの待合イス

<窓口カウンター>



手がかりとキックガード付きで車イスでも使いやすいカウンター

<窓口カウンター市民利用イス>



半肘付きで高齢者の方でも簡単に立ち座りがしやすい窓口用イス

■ 文書収納・スペース効率が非効率

課題の整理

- ・簡易的な収納スペースが多いため収納量を確保することができているが、安全面の観点での課題があると思われる
また、業務の特性に合わせた収納量が確保出来ていないため、物品や文書が溢れているところもある



端末設置により書類が取れない



壁面全体に収納スペースがあるが棚固定による落下の恐れがある



資料（段ボール・用紙）の整理課題

改善策の提示

機能性を確保しながら執務空間をコンパクト化するための考え方

■ 集中化

- ・分散した機能を集中することで、スペースを圧縮でき、運営管理コストも削減することができます。
- ・部門別に設置されている、保管や保存書庫および倉庫を集約し、**収納効率の高い集密ラック**で床面積を圧縮します。



収納効率の高い移動式ラック



スペース効率高い収納庫



天板利用でコミュニケーション向上



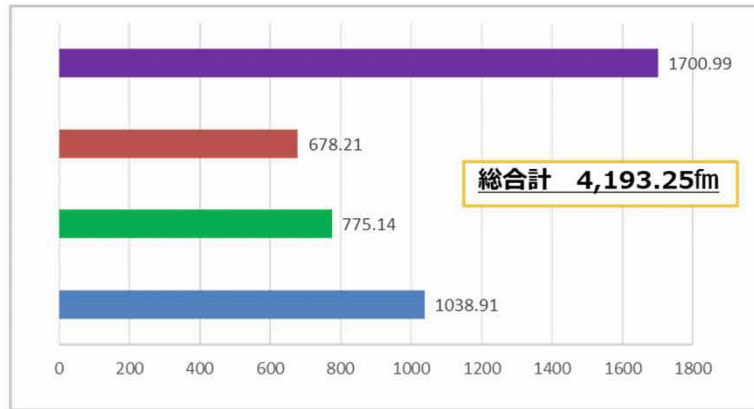
取手の高さが最適な収納庫

(1) オフィス環境整備基本計画策定業務 ③文書・物品量調査（執務室・文書庫等）

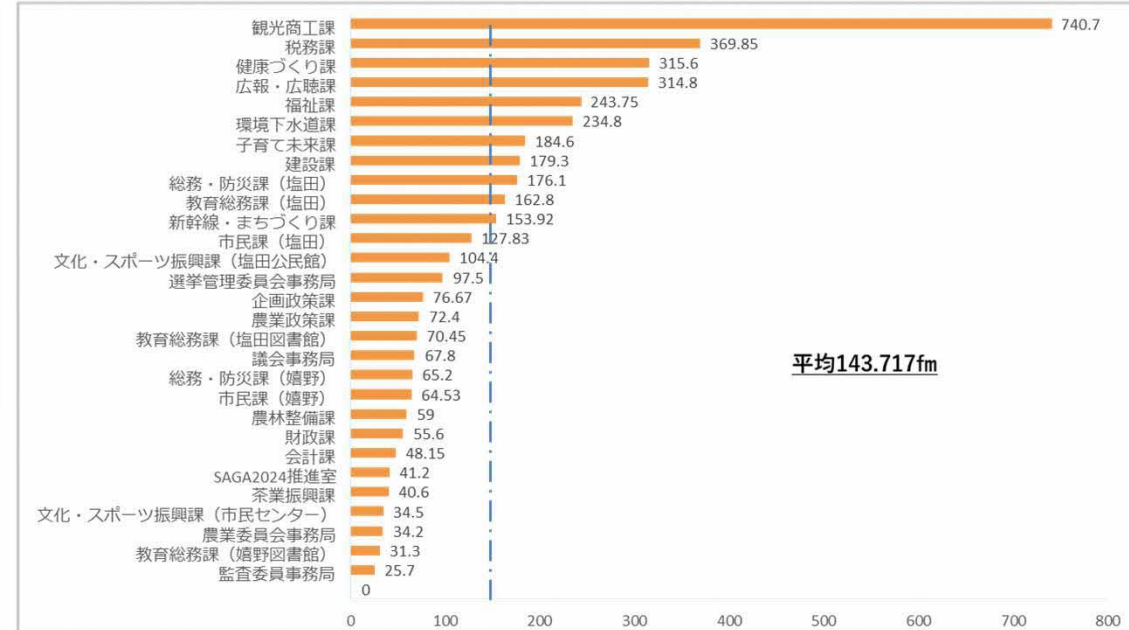
現状全体保有量と他都市との比較

- 文書・物品量 全体の保有量
 - ・庁舎全体で保有する文書・物品は4,193.25fmであった (19.06fm/1人当たり)
 - ・文書常用・当年・前年度（執務室内）が多い（表1）
 - ・保有量が多いのは、観光商工課・税務課・健康づくり課の順となっている（表2）

(表1) 全体保有量



(表2) 各課別の保有量



■他都市との比較

(表3)

	A市	B市	C市	D市
人口	82,200人	46,798人	62,190人	31,980人
対象職員数	356人	322人	271人	252人
所有文書総量	6,331.9fm	6,477.3fm	3,671.8fm	3,990.6fm
職員1人当たり	17.8fm	20.1fm	13.5fm	15.8fm

●2庁に分かれている分、重複している文書等があると推測されるなか、文書の総量で見ると職員数に対してD市に近いと思われる。しかし、他都市の情報（表3）では、物品量の確認が未定なので、嬉野市では更なる削減の検討（観光商工課等）が期待できると確信している。

(1) オフィス環境整備基本計画策定業務 (現状面積) ④現状の執務面積等と他都市の比較

現状面積と他都市との面積比較

■現状の面積 (人口 25,140人 職員数 272名)

延床面積の1人あたり27.4㎡ ・ 執務室面積は職員1人当たり7.23㎡ (㎡)

	嬉野第1庁舎	嬉野第2庁舎	嬉野庁舎	塩田庁舎	合計
執務室	721.5	458.2	1,179.7 (34.9%)	789.3 (19.3%)	1,969 (26.4%)
会議室	237.1	156.7	393.8 (11.7%)	302.4 (7.4%)	696.2 (9.3%)
共有部分 (廊下)	517.3	91.8	609.1	685.9	1,295
共有部分 (階段・WC)	166.2	182.2	348.4	349.2	697.6
その他	548.0	196.4	744.4	1,046.6	1,791
延床面積	2,190.0	1,085.2	3,275.2	3,446.8	6,722
延床面積 (基本構想)			3,371.3	4,081.5	7,452.8

■ 他都市データ

自治体	A市	B市	C市
都道府県	佐賀県	宮崎県	島根県
竣工年	2020年	2017年	2015年
延床面積 (㎡)	7,218	7,153	7,628
人口	31,335	46,000	40,000
職員数	256	287	250
延床面積 (㎡) / 職員数 (人)	28.2	24.92	30.51
執務面積 (職員) (㎡)	1597.4	2000.4	2132.5
面積比率 (%)	22.13	27.96	27.95

● 他都市との比較

・2庁に分かれているため共有部分が多く取られている可能性があると思われる。他都市に比べて職員に対する面積は近いものはあるが、今後、庁舎建設をコンパクトな考えで進めていく検討は十分にあると予想される。